

# ウイルス感染対策における抗体検査の 重要性と結果の解釈

第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会 共催セミナー 14

[www.siemens.co.jp/diagnostics](http://www.siemens.co.jp/diagnostics)

- 日 時：2016年1月31日（日） 8:00～8:50
- 会 場：第3会場（仙台国際センター・会議棟 2F 萩）
- 座 長：山中 喜代治 先生  
SRL/MML 学術顧問・前大手前病院
- 演 者：出口 松夫 先生  
大阪大学医学部附属病院 臨床検査部

※ 本セミナーは整理券制ではありません。

共催 第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会  
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

# ウイルス感染対策における抗体検査の重要性と結果の解釈

出口 松夫

大阪大学医学部附属病院 臨床検査部

## 【はじめに】

麻疹、水痘、風疹、ムンプスなどのウイルス感染症は、短期間で病室から病棟、さらには病院全体に伝播する危険性があり、これらの伝播拡大を防止するためには、患者の早期診断・治療および感受性者の選別を迅速に行う必要がある。そのためにはウイルス抗体検査は必須となるが、これらの検査は測定原理や測定試薬により反応性が異なり、結果を正しく解釈するためには専門的な知識が必要となる。本セミナーでは抗体検査の重要性と結果解釈の注意点について紹介したい。

## 【感染対策の実際】

伝播力の強いウイルス感染症が疑われる患者および職員が発生した場合は、まず発症者を隔離し、原因ウイルスの診断につとめる。発症者の診断がつき次第、接触者・感受性者を早急に選別しなければならない。すなわち、発症者の診断にはIgM型抗体検査、感受性者の選別にはIgG型抗体検査が重要となる。一方、アウトブレイク前の感染防止対策としては、職員のIgG型抗体検査を実施し、感受性者に対してはワクチン接種を推奨する。とくに新規採用者に対するワクチン接種は極めて重要である。

## 【抗体検査法選定のポイント】

抗体測定試薬の選定ポイントは、IgM型抗体とIgG抗体の分別測定を迅速・簡便に測定できることである。これらのことを考慮すると、CF、HI、NT法よりもEIA、FLEIA、CLEIA法などが適している。どの試薬を導入するかについては施設の規模や運用状況によって異なるが、重要なことは導入試薬の特性を十分に把握し、正しい結果解釈ができることである。

## 【抗体検査の結果解釈】

感染症抗体の生体内での産生順序は、まずIgM型抗体が産生され、次いでIgG型抗体が産生される。一方、抗体検査試薬の検査結果は必ずしも生体内での産生順序を反映する訳ではない。さらに、IgM型抗体検査試薬は非特異反応が多く、低値陽性結果の解釈については注意が必要である。すなわち、検査結果を正しく解釈するためには、使用試薬の特性を十分に把握しておく必要がある。さらに、抗体測定は輸血や生物製剤投与により影響を受け、免疫抑制剤投与時においても二次的な影響を受けることを留意する必要がある。

## 【おわりに】

ウイルス感染症の伝播拡大防止の第一歩は、感染源の早期診断と感受性者の選別であり、ウイルス抗体の緊急検査を抜きにして進めることはできない。近年、多くの病院では黒字経営を優先し、検査室においてもランニングコストを重視した院内実施項目の選定が行なわれている。しかし、検査室が医療に貢献するために重要なことは、ランニングコストによる項目選定ではなく、真に院内測定が必要とされる項目を選定し、積極的に導入することだと考える。